

♣書評

## 独創の条件 —画期的商品はいかに生まれたか—

評者 望月 正博

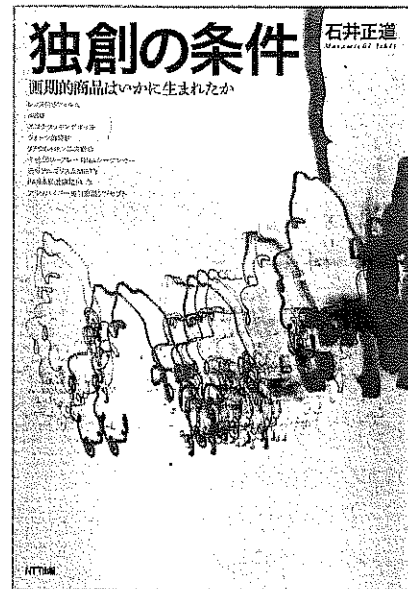
昨今、技術立国の重要性を再確認し、“イノベーションをいかにマネージメントするか、其の為にはどうすれば良いのか”という目的の研究や試みが企業の開発者や管理者はじめ多くの方々の関心を集めている。本書は、副題“画期的商品はいかに生まれたか”であるが、本書の目的は、独創的な商品開発を成功させるにはどうするか、努力しだいでその可能性を組織的に増加させることが出来るという仮説の事例研究に基づく立証でもある。今後はより多くの人に独創的な商品開発を担ってもらわなくてはならない、という著者の思いを感じる。

本書で紹介する9つの事例は、どれも日常的になじみの深い、かつ世界初の独創的な製品を取り上げているので、読者にとって背景(社会的、技術的)や開発の経緯、成功の要因などの紹介記事を理解しやすく更に興味深く読むことが出来ると思う。特に、調査はその製品開発を担った開発者を中心に詳しく行っており、成功の要因として人材の育成と活用、および取り巻く環境の重要性を分かりやすくしている。

これらの事例を、商品開発のプロセスはどのようなものであったか、開発を担った人はどのような人材だったか、組織環境はどのようなものであったかと言う観点から横断的に分析を進め、マナビルの理論、つまり個人の創造性が発揮される三つの構成要素(専門能力、創造的思考能力、モチベーション)を基本として考察を進めている。

成功の構図は、トップ環境形成ボトムアップ型商品開発と言われるように、開発は個人の能力と戦略的思考によるところは大きいが、環境を準備するのはトップの意思や施策による。そして開発担当者が自ら取り組むテーマを選定し、自ら発見した課題に取り組んだ方が創造性を発揮しやすい、と分析している。

提言として、開発者の創造的思考能力にプラスに影響を与えるためには、社会の仕組みや制



NTT出版  
2005年11月21日初版第1刷発行  
151頁/定価2,200円+税  
著者 石井 正道

度について検討する必要がある。具体的には海外論文電子ジャーナルの容易なアクセス、理科系の英語教育レベルアップ、戦略的思考能力の育成(MOTのような管理者の能力ではなく、開発者自身の能力の育成教育)、モチベーションにプラスに影響を与える自主的かつ積極的に活動する人材育成を提案している。

本書は、独創の条件としての基本は人材育成と人材活用であり、社会制度、会社経営の見直しを含めてその重要性を改めて認識させてくれる。

今後、このような事例研究が種々の観点から進むことを期待するが、本書が教科書的存在として活用されることと思う。

尚、本書は筆者の「独創的な商品開発を担う研究者・技術者の研究」(DISCUSSION PAPER NO.38)文部科学省科学技術政策研究書(2005年1月)を一般の人にわかりやすく書き直したものである。

(もちづき まさひろ/NEC通信システム㈱)